

<33

# 恋する現代アート

2016年7月24日[日]  
～11月23日[水・祝]

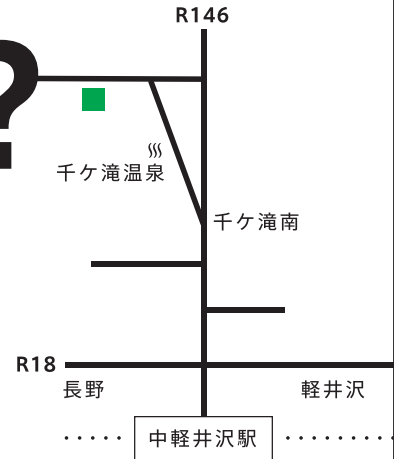
主催 | 一般財団法人セゾン現代美術館 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉芹ヶ沢2140 電話 | 0267-46-2020  
開館時間 | 10:00～18:00 (11月は17:00閉館) 最終入館は閉館30分前 休館日 | 木曜日 (9/22,11/3は閉館) 但し8月は無休  
入館料 | 一般 1000円 (900円) 大高生 700円 (600円) 中小生 300円 (200円) ( ) は団体 20名以上の料金

## 恋愛は何色？

19世紀イギリスのロマン派詩人シェリーは「恋愛の真の本質は自由である」と語りました。「恋愛=自由」それは時に身勝手に一方的、盲目的であり、自己愛の延長に他ならない。だからこそ、何色にも染まらない「黒」なのです。

恋愛は、時にその自己愛的感情を超越し、自己犠牲を含む「愛」に発展する可能性を秘めています。人類最古の叙事詩と言われるギルガメッシュ叙事詩にもすでに記述が見られ、日本で平安時代に生まれた世界最古の小説である源氏物語はもちろん、世界のあらゆる文学作品に登場するのと同様に、現代美術作品においても数多くの作家が恋愛をテーマに、また恋愛からインスピレーションを得た作品を創作してきました。

今回の展示ではこのような恋愛の要素を中心に据え、「昔の場所や事物に思いをはせること」という広義の「恋」からも着想を得ながら、恋愛にまつわる作品の展示はもちろん、恋愛を彷彿とさせる作品を主観的に展示しています。本展が、みなさまに今一度トキメキを体験して頂くきっかけとなれば幸いです。



5.



6.



7.



9.



8.



1.



2.



3.



4.

1. ロイ・リキテンスタイン 《赤ワインのある静物》1972年
2. A.R. ペンク 《ヨーゼフ・ボイスの記念に》1986年
3. 篠原有司男 《酒呑童子》1986年
4. エルズワース・ケリー 《無題》1983年
5. ロバート・ロンゴ 《MEN IN THE CITIES》1990年
6. 宇佐美圭司 《やがて総ては一つの円の中にNo.3》1982年
7. 箱崎泰美 《一日の終わりに》2011年
8. 小林正人 《星のモデル#6 (ある作品とペア)》2010年
9. ジュリアン・シュナーベル 《アンナ・マグナニーのために》1985年

セゾン現代美術館  
SEZON MUSEUM OF MODERN ART